

◎ 【国語部門】

1 行事及び内容

(1)研究委員会

①第一回研究委員会：6月1日（月）

- ・事業計画 ・文集「あまくさ」第四十九集の編集方針と募集要項の検討
- ・研究発表会の検討

②第二回研究委員会：10月6日（火）

- ・研究発表会の開催要項 ・指導案の検討

③第一回文集「あまくさ」編集委員会：12月25日（金）

- ・編集までの日程と審査基準の確認および審査 ※学校図書館教育部門と合同

④第二回文集「あまくさ」編集委員会：1月6日（水）

- ・審査反省および入賞者名簿の作成

⑤第三回文集「あまくさ」編集委員会：1月25日（月）

- ・第四十九集の校正と編集の反省

⑥第三回研究委員会：2月15日（月） 予定

- ・国語部門年間反省 ・次年度へ向けて

～その他の活動～

※研究発表会開催の打ち合わせ及び指導案検討打ち合わせ(計3回)

※小学校県文集「ゆめ」審査会：10月17日（土）

(2)本年度の研究発表会について

研究テーマを「生きて働く言葉の担い手が育つ国語科授業の創造～単元を貫く言語活動の工夫を通して～」と設定し、11月27日（金）に上天草市立阿村中学校で以下の内容で研究発表会を実施した。（参加者：小学校19名 中学校22名）

授業 「いにしへの心を訪ねる」（中学2年）

授業者：阿村中 吉田由紀 教諭

実践発表 （阿村小の校内研究実践の発表）

発表者：阿村小 本田聡太郎 教諭

指導助言・講話

講 師：熊本教育県立センター 岩本龍二 指導主事



2 成果と課題

本年度は、部門別研修が今の形態になって初めての研究発表会を実施した。昨年度の研究を参考にしながら、研究の方向性や実施内容の検討を重ねてきた。限られた時間の中で、しかも小学校・中学校双方に通用する研究会の在り方を探っていくことは容易ではなかった。しかし、成果も大きかった。小学校・中学校の教員と一緒に協議することで、互いの授業づくりの考え方が見えてきて、義務教育9年間を見通した国語科学習の在り方について検討することができた。研究発表会でも、小・中双方の視点から活発な議論が展開され、参加者からおおむね満足いく研修会であったとの評価をいただいた。

文集「あまくさ」第49集は学校図書館部門との合同審査を経て無事発行することができた。昨年度同様、国語部門所属の多くの先生方に協力していただき、1日で審査を終えることができた。複数で話し合いながら審査をすることで審査の精度が上がるとともに、審査員にとって作文指導の研修の場にもなっている。また、小学校県文集「ゆめ」の審査も多く先生方の協力により、スムーズな審査ができた。次年度も多くの作品が寄せられることを願っている。

